

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600228		
法人名	社会福祉法人 天寿会		
事業所名	グループホーム いたどり (ユニット巻)		
所在地	北海道白老郡白老町字竹浦135番地7		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 14 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 3 月 9 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600228-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は支援者ではあるが1人の人として出会うことを大切に。入居様が充実した満足できる「自分らしい暮らし」が実現できるように、生活歴やご家族様からの情報を受けながら個々の特性を活かした活動を提供したり、積極的に活動参加できるように職員も共同しながら取組へのサポートを行います。また、高齢に伴う心身の低下に際しても、状態に応じた「できること」を入居者様と一緒に探したり、日々の記録などで職員同士で考え実行に移します。「できる」部分を探り自身の力を発揮する事が、ご本人の自信になり充実した自分らしい生活を送ることに繋がると考えている。個々のペースを意識しながら、タイムスケジュールは設定せずにその日の心身の状態や体調などに応じ、自己選択しながら生活を送って頂いています。また、生活を送る上ではご家族様の要望も確認しながら支援をしている。コロナ禍で町内会でのイベントは中止され参加はできていないが、町内会に加入し事業所内での生活の様子は継続し確認して頂けるように町内会の回覧板に情報誌を付けて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、幹線道路に程近い距離の山と海も望める自然豊かで閑静な住宅地に位置する平屋建て2ユニットの事業所である。運営法人は医療、障がい、高齢者支援事業等を展開し地域福祉・医療に貢献しており、事業所は開設12年目を迎えている。玄関を中心に左右両ユニットの造りで、リビング、浴室、トイレなど共用の空間は広くてゆとりがあり、温度・湿度も適切に管理され、利用者は居間、談話コーナーなどで思い思いの場所でソファに座りながらゆったり過ごしている。状態像(利用者の心身の状態)から原因を分析し今後のより良いケアのあり方を積み上げるモニタリングが特筆でき、家族の評価も高い。通院受診は事業所対応で行い家族の負担軽減となっている。職員による利用者の力を引き出す日常生活動作支援や豊かな食事支援も優れている。徐々に遠方への外出や外食も感染対策を講じて再開し利用者の生活の幅が広がっている。利用者の求める生き方を日々の暮らしの中で熱心に支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が入り出す事務所内の時計横に理念を提示している。また、ネームプレート裏にも掲げた物を持ち歩きいつでも確認できるようにしている。業務でも理念を意識し働いている。	法人理念と事業所理念はパンフレットや事業所内要所に掲示している。職員ネームプレートにも明記している。理念に添い、常に思いやりのある温かで家庭的な生活を目指したケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、今まで参加していた町内会行事・活動は中止となり地域交流も減少している。ただ、利用者の方との散歩や事業所の外での行事などで地域住民とお会いした時には都度挨拶や少々の雑談をしている。	地域との交流はコロナ禍により自粛しているが、町内会への事業所情報誌の回覧や障がい有者の方を受け入れ風船バレーや散歩などを利用者と一緒に楽しむ機会が設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会(12区)には月1回情報誌を回覧板にて回覧して頂き、活動内容や事業所の様子などを確認して頂いている。法人内のホームページにブログを作り、町内外に事業所内の様子を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は紙面開催にて、事業所内における活動・取り組み・入退院・入退去・事故報告・コロナの状況などの報告を行う。報告後、運営推進会議構成員の皆様からご意見求め、意見を頂きながら、サービス向上に繋げている。	2ヶ月毎の運営推進会議は書面開催となっている。会議では活動報告や予定、事故・ヒヤリハット、利用者状況、職員について等を議事録に纏め構成員へ送付し、意見や提案を得ながら運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の高齢者介護課とは電話やメールにて連絡を取り合い情報共有や意見を頂いている。また、毎月の情報誌の送付や定期的な紙面での報告(事故や活動等)にて実情を確認して頂いている。	町の担当者とは介護保険制度に係る案件等で意見を仰いだり助言を得ている。また、後見人制度の利用に伴い、町との情報提供や意見交換を行いながら対応を行っている。胆振総合振興局担当者が生活保護案件で定期的に訪問している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会中心で定期的に開催する事業所内研修と、拘束について自己で調べ学ぶなどの機会を設けている。夜間の防犯に備えた施錠以外は玄関の施錠は行わず、自由な環境づくりに努めている。	「身体拘束廃止、適正化のための指針」を定め、「身体拘束虐待防止委員会」を3ヶ月に1度開催している。これらに係る内部研修を年4回実施し、身体拘束・虐待の具体的な事例集や資料を元に学んでいる。特にスピーチロックについても意識づけを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	町内で開催される研修会参加や委員会中心で虐待防止の研修を定期的に開催。内容としては虐待事例をあげての勉強会(意見交換)などを行っている。以前に比べ言葉遣いなど改善されていると思うが、時折声のトーンが大きく強めの時があり注意が必要な場面がある。		

グループホーム いたどり (ユニット巻)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内にも制度を利用している方がいるので、自己や研修にて学習している。現在、町の協力のもと制度の活用できるよう取り組んでいる最中の方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には直接面談し、説明しながら契約書の確認してもらっている。疑問点について都度確認し説明している。法改定時には、改定前と改定後の変化が分かりやすい様に、紙面でお伝えし理解得られやすい様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは普段の関りの中で気軽に気持ちを引き出せられる様に努めている。ご家族へは面会があればその時に近況報告や状態に応じた支援の希望を確認している。ただ、最近ではコロナ禍で面会より電話やメールにて報告し意見と要望を確認し運営に繋げている事が多い。	利用者からの外出についての希望に適宜個別支援にて対応している。家族からはコロナ禍による面会方法等の意見や要望を聞きながら運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝と夕の1日2回のミーティングや、それ以外に日常的にも意見や疑問などを話せたり、聞く体制をとり、その事が業務にも反映されている。	職員は4つの委員会に所属し委員会業務に取り組んでいる。管理者は1日2回のミーティング時に意見等を聞いたり個別相談等に応じている。希望休制度を設け働きやすい環境を整えている。今後は法人で人事考課による個人面談を実施する予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算や特定処遇改善加算の取得にて介護職員など給与ベースアップに繋げている。毎月希望休の確認を行い、希望に添った休みがとれ業務へのやりがいをもてる様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍ではあるが、可能範囲外部研修の機会を設けている。内部研修では全員参加は困難でも回覧にて全員が研修内容を確認して頂いている。法人内では介護福祉士実務者研修にて資格取得へのサポートをしてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前の様に他部署職員との対面での交流面は大幅に減少しているが、チャットワーク(ビジネス用チャットツール)活用しての交流は図れている。町内のグループホームとも情報誌や紙面での運営推進会議報告にて情報共有を図っている。		

グループホーム いたどり (ユニット巻)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居事前面談にて、本人・家族の意向やケアマネジャー等の関係者からも意見及び情報を確認し、入居に対し不安感をもたないよう対応している。入居後も細かい記録を残したり申し送りをし、職員間の情報共有と本人に添った支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の希望や心配な点の聞き取りを行い、可能範囲希望に添った支援を行うようにしている。また、入居直後も本人の様子をお伝えしたり、情報誌にて生活の様子を確認して頂いている。ご家族が気持ちを抑え込まない様に話しやすい環境づくりを職員側で行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態変化時には、現状を報告しその方の身体状態に応じたサービス(メリットやデメリット含め)が利用できる他事業所の提案をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる部分は自身で行ってもらい、生活に役割を生きがいを持って頂くよう支援している。その中で、職員も協同作業行い互いの良好な関係を築ける様にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で以前のように家族を交えた行事提供は出来ていないが、連絡を密に行い情報誌やブログにて様子をお伝えしている。ケアプラン作成時には意向確認を行い、意向を反映しともに支える支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅に居た頃と変わらない生活が営める様に、同じ通院先や美容院に通える様に支援している。面会可能な時には家族以外にも知人との交流を図って頂いている。また、時には他事業所の職員と連携しながら他事業所に入居している古い知人にも面会できる支援をしている。	時間制限や面会場所を取り決めた中で、家族と利用者の面会交流が再開されている。家族との電話や手紙のやり取りや、利用者の自宅を見に立ち寄り、通い慣れた美容院へ整髪に出かけるなど、これまで大切にしてきた関係の継続に努めている。	

グループホーム いたどり (ユニット巻)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活状況から入居者様同士の相性など確認し、食事席椅子の配置や家事作業の分担、季節ごとの飾り付けなどの準備をしてもらっている。飾り付けの部分では利用者同士で教え合うなど互いに支え合い行って頂く。自ら交流困難な方や新入居者の方には職員が利用者間に入り交流しやすい環境をつくっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は、退去したご家族も「餅つき」や「バーベキュー」に参加して頂けたが、コロナ禍になってからはできていない。ただ、病院や地域にてお会いした時には、挨拶以外に退去した方との思い出話や現状を聞いている。家族より支援方法など専門的な意見を求められた際には都度お答えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身の意向が表面化できない方には、家族に聞き取りながら意向確認し、言葉で表せる方には生活歴や普段の言動を通じ意向確認に努めている。また、職員間の情報共有が図れるように記録に残す様にしている。	職員は利用者1人ひとりに関心をはらい思いの把握に努め、把握した内容は申し送りノートにも記載している。言葉に出来ない思いも時間をかけて様々な支援を行いながら利用者の安心や健やかな暮らしとなるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族に生活歴や生活スタイルの確認を行い、他事業所からもサービス情報の確認を行っている。聞き取りした事はフェイスシートにまとめ職員間の共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の言動や身体変化に対し申し送りを行い記録に残し状態把握に努めている。また、些細な事も職員間で情報交換を行い利用者の細かい把握ができる様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活記録を確認し、定期的なアセスメントとモニタリングを行う。利用者の担当と副担当介護員中心に意見を聞き、本人と家族からも電話でニーズなどを確認しながら意見の集約を行い、介護計画に反映し作成している。	日々の関わりやケア記録を基に、職員で話し合い、家族等の意見を反映した介護計画を作成している。心身の状態変化時は、変化に応じた見直しと現状に即した介護計画の作成をしている。	

グループホーム いたどり (ユニット巻)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に毎日の状態や気づき等を個別に記入し職員間の情報共有をしている。その中で実践経過含めアセスメントにも活用し介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	頻繁に聞かれる買物や外食への希望に関してはコロナの関係で中々答える事は出来ないが、その他の本人や家族の要望には可能な限り答えられる様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し地域の一員として生活している。現状では町内活動中止により繋がりは減少しているが、利用者の把握は継続され見守りなどのサポートは受けられている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、在宅から継続し主治医のいる病院へ通院している。ただ、状態変化に応じて新たな通院先への変更もあるが、その際はご本人及びご家族の了解を受け変更している。また、新たな病院には医師からの情報提供書以外に、変更に至った経緯を説明し必要な診療が受けられる様に対応している。	入居時に、利用者や家族からこれまでの受療状況を確認し、把握している。また、利用者がこれまでにかかっていた医療機関や希望する医療機関を受診できるように支援している他、受診結果については、家族にその都度電話で報告をしており、共有化されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤で看護師在籍しているため、日々の体調変化や状態変化など必要に応じ報告や確認して頂き助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院前に至った経緯など情報提供書を提出している。入院中には医療相談室を通じ状態把握に努め退院後の適切な支援に繋がられるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期への事業所の方針・取り組みは入居契約時に説明し、ご家族の意向確認をしている。また、入居後の状態変化時に再度意向確認をする様にしている。ただ、往診医師が近隣に不在で現在は看取り支援が不可能な状況となっている。	「重度化した場合における対応に係る指針(看護・介護指針)」を定め利用契約時に説明し同意を得ている。利用者の状態変化に伴い主治医、家族と相談し今後の対応方針を取り決めている。看取りはしていないが、母体法人関連事業所への移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローチャートにて夜間や休日の急変時の支援方法を作成している。また、連絡簿にて緊急連絡体制を作成し救命救急の研修を受講している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間想定 of 防火避難訓練を行っている。訓練では消防職員の協力をを受け、講評や効果的な避難方法・水消火器使用し消火器体験を実施している。また、いつもは日中想定 of 津波避難訓練を行っていたが今回初めて夜間想定での避難訓練を実施。	昼夜を想定した火災避難訓練を年2回実施している。地震・津波災害訓練では夜間帯を想定し近隣にある避難先の公園「ナチュの森」への車両移動訓練を行った。災害に備えた備蓄品を確保している。	令和6年4月に義務化となる自然災害発生時における業務継続計画策定(BCP策定)の開始に向けている。BCP策定に当たって行政や町、消防署等から最新の防災に関する情報得ながら、関係機関とも連携し取り組んで行くことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは利用者の尊厳を尊重した対応をしている。また、聴覚の状態は個々により違うので、声掛けのトーンは個々に応じた支援をしている。業務の流れや多忙な時など、時々、同じ声のトーンで接している時もあり職員間で注意している。	接遇や対応に係る研修会を年4回実施し、利用者の尊厳や誇りを損ねる言葉かけをしないよう意識化に努めている。気になる対応が見られた場合は職員間で注意し合い、管理者も指導する場合がある。	言葉の内容や語調等、利用者の尊厳に対して適切か否かを定期的に事業所全体で確認したり、研修会や会議で制止するような言葉かけや尊厳を損なうような言葉等を学び接遇の向上に努める事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で生活に対する利用者の思いや希望を確認するようにしている。また、何かを決めなければいけない時には、個々の状態に応じながら表現や聞き取り方法を変えたりし、自己決定しやすい様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決めずに利用者のその日の希望時間や体調・精神状態にそい、意向に応じた個別の支援をしている。ただ入浴については、そうする事で間隔などあき過ぎる場合があるので、清潔面を保持する為にも一定の間隔で体調に応じ入浴して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で、その日の気分や天候に応じた衣類を選択し着て頂いている。コロナ禍で外出は減少しているが、近隣へのドライブや受診でも化粧をほどこし出掛けている。理容室に行く前には、事前に髪型・髪の染色等の確認を行い依頼している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立で嗜好にそぐわない肉の時などは魚へ代替したり、口腔内の状態に応じ食材の大きさ・形状の変更など行い、食事を楽しめるように支援している。家事作業は個々の利用者の心身の状態に応じた内容で可能範囲の作業を職員と協働し行って頂いている。	各ユニット2名構成で食事提供委員会があり、メニューや行事食等を決めている。地元白老牛のバーベキューや忘年会のおせち料理、生寿司のテイクアウトをしたり誕生食や季節食で食事の楽しさを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に飲食摂取量を紙面に書き込み、食事量はパソコンにも入力している。そちらのシートにて飲食量の不足を確認できるようにしている。また、水分は種類や量の記入以外にグラフ化しひと目で摂取量が分かるようにしている。飲食量が不足しない様に嗜好品を購入したり、形状を変えたりしながら対応している。		

グループホーム いたどり (ユニット巻)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に応じ、声掛けをしながら自身で磨いて頂き終了後の仕上げとして職員側で介助している。義歯使用者についても口腔ケア及び洗浄剤の使用を声掛けにて援助している。歯科受診している方は歯科医に口腔ケアのアドバイスを受け支援に結びつけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを使用し個々の排泄間隔に合わせてながらトイレ誘導をしている。24時間シートにはその日の水分量も分かるので、摂取量に応じた間隔で誘導している。	排泄チェック表をもとにパターンを把握して、トイレ誘導を行なっている。紙おむつの使用・ポータブルトイレの利用など、状況に合わせて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通に良いオリゴ糖や乳製品を購入し、なるべく下剤に頼らない様に工夫している。生活の中で運動や近隣への散歩などの活動もしている。ただ、散歩など拒否される方もいるので、利用者全員が十分な運動ができていない。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、浴槽にお湯を入れておき、その日の個々の希望や気分に応じ「入浴したい」と思ったタイミングで入浴できるようにしている。浴槽内入浴中は個々に応じ、歌や会話しながら入浴を楽しんで頂いたり、職員は利用者の視界に入らない場所で見守り行うなど配慮しながら支援している。	利用者の体調や希望にあわせて入浴できるように取組んでいる。在宅での入浴時間の習慣を可能な限り継続したり、入浴の声かけから浴後のドライヤーまで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外気温以外に、室温に応じた寝具と寝巻きの調整を行い安眠できるようにしている。また、昼夜問わずリビングの長椅子で横になり休息できる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後に薬の変更あった方の記録には、変更の経緯が分かるように医師の言葉や薬の種類を記載し、ミーティングでも申し送り情報共有を図っている。処方された薬の内容と薬情を確認し、担当職員が曜日ごとの薬をセット行う。また、服薬時は口腔内の飲み込みの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族やご本人から聞き取りした利用者の個々の生活歴をフェイスシートで確認し、縫物や字の書きとりを行っている。その成果がご家族が確認できるように定期的に自身でご家族へお手紙を書き送付している。		

グループホーム いたどり (ユニット巻)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出行事や買物支援が大幅に減少されているが、感染者減少に応じ人混みの無い場所へドライブや外食支援など行っている。また、希望に応じ都度近隣への散歩も行っている。	コロナ禍の中、利用者の状態に応じながら「みたらの道の駅」や「サンチャイルド」へ出かけ、動物と触れ合ったり買い物や飲食も交えるなどの外出を行っている。近隣への散歩や登別の桜並木を車窓から眺めたり、通院帰りにドライブするなど、個々の利用者に合わせて外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭自己管理の希望があれば、家族同意を受け所持して頂き安心感を持って頂く。また、金銭管理している方には、希望に応じて現金や通帳・金銭出納簿の確認をして頂いている。買物支援がコロナで中止しているため、自分で金銭を扱うことが無くなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	少人数であるが定期的に自身で書いた手紙をご家族へ送付している。電話でも希望に応じ家族や友人へいつでも電話を掛けられる様になっている。また、掛かってきた電話を繋いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの装飾を施し、季節ごとの行事を提供している。通院時や散歩では風景を視覚で感じ、気温を肌で感じるなどの機会を設けている。ただ、装飾については過度に派手に飾ったりしない様に配慮している。ただ、コロナ対策で換気を定期的に行うことで「寒い」とのお話が聞かれることもある。	両ユニットは玄関を中心に左右に分かれた造りで、其々広々とした第1リビングと中庭の見える第2リビング、ウッドデッキもあり利用者が思い思いの場所でゆったりと寛げ開放感ある共用空間である。観葉植物を置き、季節感ある飾り付けされ、建物内全体には床暖が設備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行事提供時や、リビング食卓椅子では気の合う利用者同士で座れるように配慮している。また、景色が見える場所に一人用の椅子を置き、いつでも景色を見たり、一人で過ごす事のできる環境を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には必要物品以外に馴染みの家具や、物を持参してほしいとお願いしている。居室環境も本人と家族と相談し、なるべく自宅に近い配置を提供し心地よい暮らしができる様に支援している。	居室入り口に個別の飾りや表札を掲げ自室と分かるようにする。床暖になっておりクローゼットの他、利用者や家族の希望により既存のベッドやTVの提供もある。馴染みの家具や調度品、趣味の品々が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できる様に館内はバリアフリーで、廊下やトイレ・浴室など手摺を設置している。車椅子や歩行器使用者も自由な移動と、楽に方向転換できるような幅と空間を確保し、自立した生活が送れるように努めている。		